

ジェットロ・ライブラリー

ジェットロ・ライブラリーは地下鉄虎ノ門駅から徒歩5分、共同通信社ビルの6階にある。虎ノ門という場所柄か、新聞社のビルのせい、建物に一步入るといきいきとした活気が感じられた。私たちはまず、日本貿易振興会が開発し、4年前から商品化したデータベース「ジェットロエース」について説明を受けた。

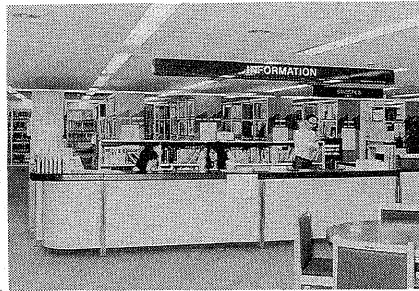
ジェットロエースは60カ国80カ所の日本貿易振興会の海外事務所から送信されたレポートと各種統計・資料を主体に作成した、世界102カ国(地域)の国別経済・貿易・投資情報を収録したものである。国名コードと項目コードを組み合わせるだけで検索することができ、特殊言語圏を含む小国の情報

や社会主義国の情報も日本語でオンライン・サービスが受けられるので大変便利で、海外出張に行くビジネスマンなどに重宝がられているようである。料金は接続基本料金300円+300円×検索数、オンライン利用者は、NEC取扱いのジェットロエースの場合が約1万人、他の2社のものでは数百人ずつとのことである。

データベースの説明が終わり、私達はライブラリーを案内してもらった。利用者はほとんどビジネスマンで、外国人の姿も多く目についた。表示はすべて日本語と英語の2カ国語で書かれており、全体的にインターナショナルな雰

囲気が漂っていた。ジェットロ・ライブラリーは貿易専門図書館という性格を持ち、その資料は各国の貿易統計、経済一般統計、ビジネスダイレクトリー、電話帳(70カ国300都市)、関税率表(120カ国)、各国の年鑑・年報、*who's who*(120カ国)、海外の主要新聞、雑誌、各国の参考図書などである。外国語の資料を少しでも利用しやすくするためのものか、背表紙に日本語のタイトルがマジックで書かれているものもあった。資料は展示3年、

資料室の書架10年でそれ以前のは閉架となっており、資料請求票により出納するという方式を取っている。ただし、統計書は保存されるが、雑誌は3~4年ぐらいいで順次廃



棄されてしまうのだそうだ。また、ここでも目録のデータベース化に向けて現在準備中とのことである。

ライブラリーは、室長を含めた職員10名と委託4名の計14名で運営されている。閲覧座席は92席で、私達が訪れた時はその7~8割が利用されていてカウンターはかなり忙しそうだった。なお他のライブラリーと異なる点として、貿易相場のカウンターが目についた。これは資料室とは別の課が担当しており、海外との取引のあるビジネスマンなどに利用されているようである。

(官庁資料課 山本由美)